

虎尾主査（さけます資源部）「平成 27 年度日本水産学会北海道支部大会最優秀講演賞」受賞！

12月19日（土）網走市の東京農業大学で開催された日本水産学会北海道支部大会でさけます資源部の虎尾主査が最優秀講演賞を受賞しました。発表演題は「道東の小河川におけるカラフトマスの自然再生産の評価」です。

カラフトマスは漁獲の6～8割が自然産卵由来の資源と考えられており、自然再生産の状況の解明が重要です。根室海峡に注ぐ当幌川の支流サクラ川ではカラフトマスの自然繁殖集団が確認されており、本支流においてカラフトマスの自然産卵による生産率（卵から稚魚までの生存率）と再生産効率（雌親魚1尾当たりの稚魚生産数）の推定を試みました。

その結果、2012年秋季には約3,600尾、2013年秋季には約60尾、2015年秋季には約1,100尾のカラフトマス親魚が遡上し、それぞれおよそ14万粒、4万粒および44万粒の卵が産出されたと推定されました。それぞれの年級群の産出卵由来の降河稚魚数は約26,000尾、1,000尾および6,000尾と推定され、その生産率（産出卵数に対する降河稚魚数）はそれぞれ約1.8%、2.4%、1.5%、再生産効率（雌親魚1尾当たりの降河稚魚数）は14尾、31尾、12尾となりました。サクラ川におけるカラフトマスの生産率・再生産効率は低く、河床環境などが必ずしも再生産に適してはいない可能性があることがわかりました。

まだ謎の多いカラフトマスの自然再生産の実態を明らかにできた点が評価されました。

